
多面的機能支払 メールマガジン

「農村ふるさと保全通信」第96号(2020.11.27)

農林水産省農村振興局 多面的機能支払推進室



高めよう 地域協働の力!

多面的機能支払のメールマガジン「農村ふるさと保全通信」の第96号をお届けします。

今回の活動組織紹介では、遊休農地やため池を利用した植栽活動を積極的に行っている組織と、高い防災意識の下で、施設の一斉点検などの様々な活動に取り組んでいる組織について紹介します。

また、富山県の活動組織にて活躍されている女性役員のインタビュー記事も掲載しています。

--- 第96号の目次 ---

1. 活動組織の紹介

☆ 豊中^{とよなか}町環境保全会 (香川県 三豊^{みとよ}市) ☆

☆ 納所^{のうそ}地区農地・水・納所会 (佐賀県 多久^{たかく}市東多久町) ☆

2. 活動組織の女性役員インタビュー

☆ すがまエコグループ (富山県 魚津^{うおづ}市 小菅沼^{こすがぬま}) ☆

(編集後記)

■ 1. 活動組織の活動紹介（1）

～ 豊中町^{とよなかちょう} 環境保全会（香川県^{かごしま} 三豊市^{みとよ}）～ ■

～ 地区概要～

- ◎ 香川県三豊市の中央部に位置する、ほ場整備事業実施地区と未整備地区が混在した平地農業地域。米麦の作付けを中心に、ブロッコリーなどの露地栽培が盛んに行われている。平成 28 年度に、旧豊中町で活動に取り組んできた 11 組織を統合して設立された組織である。
- ◎ 活動範囲は、田 289ha、畑 20ha、水路 93.5km、パイプライン 2.6km 農道 53.9km、ため池 31 か所。



コスモス畑への看板設置

～ 主な取組～

- ◎ 組織が特に力を入れている農村環境保全活動では、役員が中心となり遊休農地に毎年コスモスを植栽しており、見頃になると地域の人たちの憩いの場となっている。また、自治会青年部が中心となり、地区内のため池の法面を利用してツツジを植栽し、地域に彩を添えている。
- ◎ 施設の長寿命化対策については、各地域からの要望個所を調査・整理し、関係機関との協議により採択要件に応じた調整を図っている。全体計画を策定した上で事業の優先順位を決定する方法を採っており、役員会に諮りながら、公平・公正な運営を行っている。
- ◎ 多面の活動を通して、自分たちの地域は自分たちで守っていくという当事者意識が育まれ、加えて構成員間での話し合いの機会も多くなっている。今後も引き続き、さまざまな意見を取り入れながら、組織を長く継続し、地域の資源を守っていく。



ツツジの植栽

○ 組織の概要はこちらから！（香川県多面的機能発揮促進協議会 HP）

<http://kagawa-tamen.com/pdf/130807501.pdf>

【香川県三豊市土地改良課】

■ 1. 活動組織の活動紹介 (2)

～^{のうそ}納所 地区農地・水・納所会 (佐賀県 ^{まく}多久 市東多久町)～■

～地区概要～

◎佐賀県のほぼ中央に位置する多久市の南東部地域で、有明海に注ぐ^{うしづ}牛津川を東側に、2市1町を流れる^{はぎま}羽佐間 水道を西側に望む平野を拠点に活動をしています。活動範囲は、田 99.58ha、畑 0.02ha、水路 15.2 km、パイプライン 2.0 km、農道 8.8 km、ため池が3か所あります。

～主な取組～

◎本組織は大字納所地区の農家が主体の活動組織ですが、他地区の自治会、他地区区長組織である大字会、老人会などの地域組織も活動を共にしています。主な年間作業として、農地や法面の除草作業、農業用水路やため池の泥上げ、水路のコンクリート敷設等を行っています。また、地元小学校の3年生、大字会、老人会の共同作業により、荒れた畑を整地し、ソバの種まき・収穫を行いそば打ち体験等も行っています。

◎また、当地区は一級河川の牛津川が流れ、豪雨ともなれば冠水しやすい地区であり被害も大きいため、毎年8月7日を各施設・ため池・河川の点検日と決め、年度ごとに対応し計画を定めています。

◎さらに、地域内には土木技術経験者や機械所持者などが多数おり、こうした方々の知識・協力によって、活動に係る労働力や経費の軽減、意欲の向上に繋がっています。

～今後に向けて～

◎農地・水時代から活動に取り組み 13年が経ちます。活動の実施に伴い地域環境は非常に良くなり、年々綺麗になる水路や農道に対して他の地域の方からも「良くなっていますね」とお声掛けをいただいております。

◎今後については、地域の少子高齢化、地域の繋がりや助けあいをどう維持していくかといったような課題に対して、解決に向けて飽くことなく挑戦していきたいと思います。そのためにも、これからのリーダー育成を大事にして、研修や勉強会への積極的な参加を促して参りたいと思っています。

【農地・水・納所会 代表 田淵 厚】



ため池ゲートの土砂上げ作業



農業用水路の土砂上げ作業



地元小学生と老人会のソバの種まき



年に一度の一斉点検活動

■ 2.活動組織の女性役員インタビュー

～すがまエコグループ（富山県 魚津市 小菅沼）～■

インタビューの趣旨

活動組織の女性役員の思いや活動にあたっての工夫や苦労していることを幅広く紹介したいと考え、本記事を作成しました。

組織の概要

富山県の東部に位置する魚津市の、山間部に活動拠点があり、構成員もわずか12名だけの小規模な活動組織です。

活動範囲は、田157.2ha、対象施設は、開水路49.7km、農道20.0km。

「安全で安心な環境づくり」をテーマに、平成19年度の農地・水・環境保全向上対策の制度開始時から共同活動に取り組んでいる。

～ インタビュー ～

Q：役員になったいきさつを教えてください。

A（柴沢氏）

魚津市の隣にある黒部市出身・在住ですが、魚津にはもともと親しみが深くこの小菅沼地区にはよく遊びにきていました。私自身、エコ活動に興味があり、15年ほど前から、ヤギの力で耕作放棄地を解消し環境整備や地域活性化を目指す「小菅沼ヤギの杜」の活動に携わってきました。

その縁がきっかけで「すがぬまエコグループ」の方から、パソコンでの事務処理や写真データ処理をお願いされ「自分に何ができるか」という部分で「会計」を引き受けることにしました。



柴沢 美恵子氏

Q：特に力を入れている取組を教えてください。

A：（柴沢氏）

多面的機能支払の事業は、農用地、水路、農道、ため池の草刈、泥上げ、保守管理などが農地維持の主な活動ですが、資源向上活動、特に景観形成に力を入れて行きたいと思っています。小菅沼にある自然の景観を有効に使い、昔からある棚田を生かして、特徴的な場所にしたいと思っています。



活動中の柴沢氏

Q：多面活動をして良かったと思う点を教えてください。

A：（柴沢氏）

いろいろな方のアイデアを聞きながら、景観をよくすることで、成果が見え始めてきました。遊休農地の発生を抑えるため、ひまわりの植栽などを行っていますが、たくさんの方が見に来てくれるようになりました。また「小菅沼ヤギの杜」の活動とも相まって、景観を保持しながら地域の活性化につながっていると思います。

Q：女性役員が活動組織に入って、組織が変わった点を教えてください。

A：(柴沢氏)

私は女性であり、非農家であり、地元民ではありません。中山間地の新たな魅力を、女性目線で、農家ではない目線で、ソトからの目線で発見し、発信していけると思っています。

女性には気がつかないことに気がつける、細やかなところあります。昔からやってきたことをそのまま踏襲するのではなく、活かしながら、新しい生産性、アイデアを取り入れて、組織の活動、そして地域の活性化に広げていきたいと思っています。

そういった意味で、組織に新しい風を吹き込むことができたと思います。

Q：今後の目標を教えてください。

A：(柴沢氏)

農地の維持はもちろんですが、景観をよくすることで、いろんな方がこの地区へ来やすい場所にしたいと思っています。耕作放棄地ではらっきょうやコキア、ニンニクなども植えたいと思っています。耕作放棄地の有効活用から始まり、こちらの地区の生活に密着しながら、地産地消、にぎわいの創出、魅力発信にまでつなげていきたいです。また仲間を広げていきたいと思っています。

多面の活動をとおして、地域のいろいろなこと・人を結びつけ、活性化につなげていきたいと思っています。単なる日当支払だけの補助金にはしたくありません。

Q：地区の女性会（婦人会）と違う点とは？（雰囲気結構です）

A：(柴沢氏)

農地の維持管理など、多面の活動は今までの生活とは違う分野なので、楽しいです。こちらの地区のいろいろな方と知りあえて良かったと思います。特に、地区のお年寄りからは、女同志の生きた哲学を知ることができ、先人の知恵を学ばせていただいています。

Q：家族のご理解はいかがでしょうか？

A：(柴沢氏)

家族の理解は十分にあります。家にいないときは、皆、「山（小菅沼）に行っているな」と思われています。私にとって、いいリフレッシュになっていると思っています。私もまさにそのとおりで、楽しいです。

■ 編集後記 ■

新型コロナウイルスがなかなか収束しません。気温や湿度が低下したことによるウイルスの活性化や、第2波が落ち着いた安堵感で基本的な感染対策が疎かになったことなどが一因とされ、第3波の到来が日増しにはっきりしてきました。確かに最近では、密状態も何のその、店内に客がひしめき合う居酒屋を見かけるようになりました。そんな光景を横目に感染を恐れる一方で、この喧噪が早く日常に戻ってきてほしいともあります。

先日、高校時代の同級生とオンラインで飲み会をする機会がありました。数年間会っていなかった相手もお話しに花が咲いたものの、言うに及ばず、コミュニケーションは対面の方がやりやすいと感じました。コロナ禍以降、何度か参加しているオンライン飲み会ですが、未だ慣れずあまり気も進みません…。何の気兼ねもなく街に繰り出せる日が1日でも早く訪れるようお願い、今できる感染しない・させない対策を徹底したいと思います。

◇バックナンバー◇

https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai/nouson_furusato_hozen/index.html



バックナンバーはこちらからもご覧いただけます！→

◇「多面的機能支払交付金のロゴマーク」◇

ロゴマークは以下のサイトからご利用になれます。

どんどんご活用ください！！



高めよう 地域協働の力！

https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/attach/pdf/tamen_siharai-31.pdf

◇配信先メールアドレスの変更・配信解除等◇

メールアドレス等の変更やメールマガジンの配信解除等は以下のサイトから！

<https://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/>

手続きにはパスワードが必要です。

お忘れの場合は、以下のサイトでパスワードを再発行して下さい。

<https://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/re.html>

◇ご意見・ご感想等◇

メールマガジンに関するご意見・ご感想や取り上げて欲しいテーマ、ご自身の所属する活動組織の紹介文（300字程度）等に関するメールをお待ちしております！！

tamen_ml@maff.go.jp

【発行】

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

農林水産省農村振興局整備部農地資源課

多面的機能支払推進室（担当：岡田、小林）

TEL：03-3502-8111（内線5493）
